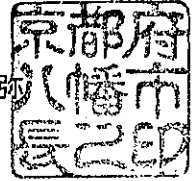




八ま第33-1号
平成19年 4月26日

国土交通省道路局長 殿

八幡市長 牟礼 勝弥



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平素は、本市行政について、格別のご高配とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。
さて、平成19年4月2日付 国道企第114号でご依頼のありました「中期的な計画の作成にあたっての意見の提出」について、別紙のとおり回答致します。

中期的な計画の作成にあたっての意見

【重点化を進める上で特に優先度の高い政策】

- 八幡市中心部を縦断する国道1号が慢性的な交通渋滞を引き起こしており、渋滞の抜け道として生活道路に車が入り込んでいる状況である。ネットワークのつながっていない第二京阪道路を整備すれば交通が分散し、渋滞も緩和されることから道路整備が重要。
- 八幡市内を通過する国道1号では歩行者道の未整備箇所がある。近年、沿道開発が進み未整備箇所を通行する歩行者も多くなっている。歩行者の安全・安心な通行を確保するためにも歩行者道の整備が重要。
- 八幡市のまちづくりには（仮称）八幡ジャンクション・インターチェンジ～八幡市駅・御幸橋～乙訓方面との連携強化を図る南北軸、男山住宅地と東部の集落地さらには木津川右岸地域との連携を強化する東西軸の整備が不可欠。市内幹線道路の整備が重要。
- 八幡市への企業誘致及び第二名神高速道路と第二京阪道路が結節する（仮称）八幡ジャンクション・インターチェンジ周辺の南部広域交流拠点整備には、広域幹線道路ネットワークが必要。

【その他道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見】

- 八幡市で管理する市道では老朽化施設が増加している。財政状況の厳しい中、計画的な維持・補修が急務となっている。
- 八幡市では、市制施行後の1980年（昭和55年）と2005年（平成17年）の年齢構成を比較すると、年少人口（14歳以下）が30.5%→13.9%、生産年齢人口（15～64歳）が64.5%→69.4%、老年人口（65歳以上）が5.0%→16.7%と少子高齢化が進んでいる。市民の安全・安心な通行を確保するためにも市内道路の歩道整備、バリアフリー対策が重要。
- 渋滞のない快適な移動を確保するとともに、まちづくりとあわせた生活インフラとしての市内幹線道路・生活道路の整備が重要。